

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4677100168
法人名	有限会社 健やかクラブ
事業所名	グループホーム元気
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 20 年 1 月 19 日

【情報提供票より】20年1月10日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.42 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て準耐火構造 造り		
	1階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		850 円

(4)利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5		要支援2	名
年齢	平均 82.2 歳	最低 58 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東條医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心こそ大切なれ」という理念をもとに、介護は「してあげる」ものであってはならず、「人生の先輩としての尊敬の念」を大切にすることを全職員が共有し、「真心」のあるケアに努めている。利用者はもちろんのこと、利用者を取り囲む家族に対しても不安を軽減し、満足できるサービスを提供できるよう取り組んでいる。そのために利用者の生活歴や家族の希望を聞いたり、利用者の現在の様子や今後の方針などを話したりする機会を設け、普段から家族とのコミュニケーションを密にとっている。建物は木の風合いを生かしたあたたかみのある雰囲気、明るく開放的な印象である。利用者の表情は穏やかで明るく、利用者職員が家族のように喜怒哀楽を共にしながら生活していることが推察される。また、年間を通じて外出の機会や季節を感じる行事の開催、レクリエーションなどを行っており、ストレスを軽減し楽しく生き生き

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	感染症のマニュアルを整備していなかったため、保健所からのアドバイスを得ながらマニュアルを作成し、内容の周知徹底を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価の意義については理解しており、サービスの改善に活かしているが、自己評価に対して職員全員で取り組んでいるとはいえない。全員で取り組むことによって、新たな気づきや改善点の発見の機会とする取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には利用者代表・利用者の家族代表・地域住民代表・民生委員・行政担当者等が出席し、ホームでの利用者の暮らしぶりや行事等の報告をしたり、今後の課題などについて意見交換を行っている。この中で出された意見をホームの運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	普段から家族に声をかけるようにし、意見等を気兼ねなく話してもらえる雰囲気作りに努めている。運営推進会議にも家族から出席してもらうようお願いし、家族の意見を運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣保育園のおゆうぎ会を見学したり、地域住民が参加できる夏祭りやクリスマス会を開催するなど、地元の人々と交流する機会を設けている。また、ホーム内にある畑仕事を手伝ってもらったり、お互いに野菜の差し入れをするなどの関係性もできている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の事業所の理念は「地域の中でその人らしく暮らし続けること」に視点をあてた内容になっていない。	○	現在ある理念をいかにしながら地域密着型サービスとしての役割をふまえた内容を盛り込むことができるよう検討中である。職員全員で地域の中で暮らし続けることの大切さを再認識するとともに、その考えを大切にしたい理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念については、理念の内容や意味が職員の中に浸透している。職員はその理念を具体的なケアの中に反映させるよう熱心に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣保育園のおゆうぎ会を見学したり、地域住民が参加できる夏祭りやクリスマス会を開催するなど、地元の人々と交流する機会を設けている。また、ホーム内にある畑仕事を手伝ってもらったり、お互いに野菜の差し入れをするなどの関係作りもできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義については理解しており、サービスの改善に活かしているが、自己評価に対して職員全員で取り組んでいるとはいえない。	○	職員会議等を利用して、自らが提供するサービスについての自己評価に職員全体で取り組んでほしい。全員で取り組むことによって、新たな気づきや改善点の発見の機会とする取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者代表・利用者の家族代表・地域住民代表・民生委員・行政担当者・事業所の管理者や職員等が出席し、ホームでの利用者の暮らしぶりや行事等の報告をしたり、今後の課題などについて意見交換を行っている。この中で出された意見をホームの運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	できるだけ密に連絡をとるよう心がけている。また行政側から認知症介護に関する研修の開催について協力してもらえるかどうかの問い合わせなどもあり、互いに連携がとれる体制ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が利用者を訪問する機会が多くなるようホーム側から働きかけ、その機会を利用して利用者の暮らしぶりなどについてじっくりと話すよう努めている。また訪問が難しい場合でもまめに電話連絡をし、連携をとりながらケアに取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族に声をかけるようにし、意見等を気兼ねなく話してもらえる雰囲気作りに努めている。運営推進会議に家族にも出席してもらうようお願いし、家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットであるために、職員の異動はない。職員と利用者の普段からの空気がとても大切であることを常に考慮した運営を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1回行っている職員会議を利用してホーム内の勉強会を行っている。またできるだけ多くの職員が外部研修に参加できるようにし、その内容をすべての職員に周知している。	○	今後は職員が希望する研修テーマを参考にしながら研修計画を立てるなど、より充実した職員育成の取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は経営者会議やグループホーム研修会に参加し、同業種と交流しているが、今後はすべての職員が同業者と交流したり、ネットワークを作っていける機会を確保できるよう取り組んでいく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらい、十分に話し合いをすることにより、利用者本人および家族が不安をできるだけ軽減できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護をしてあげる」という考えを一切もたず、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら、支えあう関係を大切にしている。利用者の表情は明るく穏やかで、職員と良好な関係を築いていることがうかがわれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や言葉から、考えていることや希望を把握するようにつとめている。まだ情報が十分でない場合や把握が困難な場合は家族と十分に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回は支援の方向性や状況の変化について職員全員で話し合っている。また、普段から本人や家族から希望・意向などを聞くようにし、様々な意見やアイデアを反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今後のケアの方向性については随時検討し、適切に対応できているものの、介護計画の見直しにまでいたっていないケースが多い。	○	利用者の現状の把握・状況の変化の共有は十分に行っているが、今後は必要に応じてそれを介護計画の見直しに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診などが必要な場合は柔軟に対応している。買い物や外出の希望がある場合も同様に、できる限り対応するよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の必要性や利用者および家族の希望に応じて支援している。職員が受診に同行し、必要なアドバイスをもらったり、服薬管理の方法について相談を行うケースもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は重度化や終末期への対応について、前向きに検討している。現状としては、協力が得られる医師からのアドバイスや家族の希望をふまえた上で適切に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は互いに気がついたことを注意しあいながら、プライバシーを確保したケアを行っている。情報の管理についても適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の自然なリズムを作るよう促しつつ、職員側の都合ではなく、それぞれの希望やペースを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は共に台所にあたって下ごしらえをしたり、一緒に味付けをしながら食事の準備をしている。食事は同じテーブルに座り同じものを食べており、大切なコミュニケーションの時間になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一方的な都合で入浴の時間を限定したりせず、ゆったりと入浴を楽しんでもらうように支援している。また、清潔な衣服には特に注意を払っており、必要に応じてシャワー浴等を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴をいかしながら、それぞれの役割をもったり、趣味を楽しんだりしている。年間を通じてレクリエーション・外出・季節の行事への参加を計画しており、楽しみごとや気晴らしの支援も十分行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外食・ドライブなど、日常的に外出する機会ができるよう心がけている。地域の行事にも参加し、事業所の中だけで過ごすことがないよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の動きに常に目を配り、鍵をかけることに頼らないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については時間帯に応じて適切に避難できるよう定期的に訓練を行っている。また、職員間の連絡体制を明確にし、緊急時にスムーズに対応できるよう日ごろから話し合っている。近隣住民からも協力が得られるよう普段から働きかけている。	○	地震や水害・台風などに対応できるような備蓄について、職員で確認・検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はおおむね把握できている。栄養面について特に注意が必要な利用者については、特に配慮した食事の提供に努めている。	○	メニューをみる限り、栄養のバランスにも十分配慮していることがうかがわれるが、特に問題がないと思われる利用者にとっても、カロリーや塩分摂取量などについてはだいたい把握すること、栄養の専門的視点からメニューをチェックする取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的で清潔感あふれる共有空間である。程よく季節感・生活感があり、利用者が居心地よく、落ち着いて生活できるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体機能に配慮しつつ、本人の趣向や大切なものを取り入れた居室になっている。それぞれの部屋は非常に清潔で、気持ちよく生活できるように工夫している。		